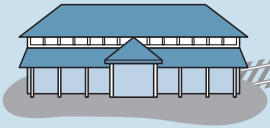
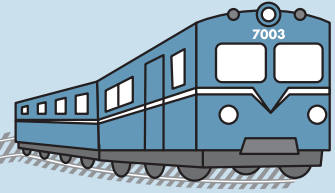


# 南区歴史探訪①

## 南区地名考



ご存知ですか。

あなたの住んでる地域の地名の由来。

自然や人名に由来するものなどさまざまです。

さあ、区内の地名を巡ってみましょう！

### 真駒内（まこまない）

真駒内川の語源であるアイヌ語「マッ・オマ・ナイ」(背後にある川の意で、豊平川から見て丘陵の陰にあることから)に由来し、川の名前がそのまま地名となりました。

真駒内は明治9(1876)年に開拓使が種畜場を開設して以来約70年間、牛、馬、綿羊、豚、ウサギなどの品種改良やその普及、農業の発展に大きな役割を果たしました。

現在は、区役所、消防署、保健センターなどが設置され、南区行政の中心地となっています。



▲真駒内  
種畜場之碑



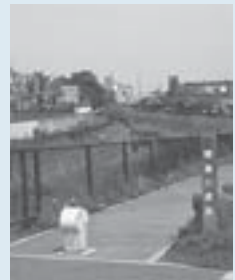
### 澄川（すみかわ）

この地域は、精進川が流れており、その川の名前から精進川と呼ばれていました。

昭和19(1944)年の字名改正により、精進川の清澄な流れから澄川と名付けられました。

この地一帯は、明治期に所有者が札幌の石田呉服店から茨木与八郎へと移り、茨木牧場と呼ばれていた頃もあります。

大正7(1918)年、定山溪鉄道の開通にあたり茨木氏が鉄道用地を寄付したことから駅名が「北茨木」と名付けられましたが、字名改正が行われた際、駅名も「澄川」に変更されました。現在は、南区の玄関口としての役割を果たしています。



▲精進川緑地

### 石山（いしやま）

この地域はアイヌ語で「ウコッ・シリネイ」(山峡を伝わって出る川)と言われ、そこから転じて穴の沢と呼ばれていました。

昭和19(1944)年の字名改正により、札幌軟石の採掘が盛んに行われていたことから石山と名付けられました。

この採掘地域一帯を石山と呼称した記録は、明治14(1881)年の『開拓使事業報告書』に残されています。

石切山街道碑▶



### 芸術の森（げいじゅつのもり）

明治35(1902)年頃から、木材を供給するため、真駒内川の上流から流送された木材を集積したところであったことから、土場と呼ばれました。その後、昭和19(1944)年の字名改正により、常盤木(常緑樹)が多いことから常盤と名付けられました。

昭和47(1972)年、道道札幌支笏湖線(現国道453号線)が開通した後、宅地造成が盛んとなり人口が急増しました。

昭和61(1986)年、地区内に芸術文化都市・札幌を象徴する大規模芸術文化施設「札幌芸術の森」が誕生し、その地区を「芸術の森地区」と呼ぶようになりました。



▲札幌芸術の森

※字名改正…市町村内の区画の名前を変えること。